



薬局長 太田 敏彦

山本組合総合病院は昭和8年2月地域の人々が協力し合って作った病院で、当初、山本郡医療購買利用組合が経営母体となり現在の秋田県厚生連に引き継がれています。平成元年8月米代川の河口を南西に臨む能代市落合の現在地に新築移転しました。病院は7階建てで、北側の病棟からは西側に日本海、北側には白神山地が眺望できる立地条件にあります。



現在、地域中核病院として、精神、感染症を含み534床、1日約1000人の外来患者様が来院します。神経内科、形成外科を含む全20の診療科に、人間ドックや検診を担当する健康管理科と退院後のケアを担当する在宅介護支援センター、訪問看護ステーションを併設しています。

薬剤科は薬剤師11名、薬剤助手3名の計14名で業務を行っています。外来・入院処方の内服薬の調剤の他、全入院患者の注射薬も個人別にセットしています。平成10年8月より薬剤管理指導業務を開始し、現在は1カ月平均約700件行っています。また平成17年11月よりオーダーリングシステムを導入し、現在に至っております。

また、NSTチームは平成18年2月より活動を開始し、栄養管理計画、栄

養管理スクリーニング等を行っています。定期的に対象患者をラウンドし、随時勉強会も開催しています。

平成18年4月には「外来化学療法室」を開設しました。外来化学療法室にはベット3台とリクライニングベット1台があります。全ての新規患者様と治療方法変更の患者様には担当の薬剤師がベットサイドに行き服薬指導を行い、調製だけでなく薬の効果や副作用・相互作用についても説明し安心して治療を受けていただけるよう努力しています。それに関連して本年4月より、緩和医療委員会の活動も活発になりました。全職員を対象に緩和医療についての勉強会を月1回開催し、職員の意識向上をはかっています。

現在、当院では病院機能評価の認定とがん拠点病院の認定を得るため、様々な情報収集と安全の確保と質向上に向けた取り組みを行っています。当院の理念である「地域の人々の命を守るため、苦難を乗り越え、献身努力し、今後急速に変化する社会環境に対応し、地域の人々の期待に応え、共に手を携えて明るい社会作りに邁進する病院」を念頭に常に患者さんに顔の見える薬剤師である、安心して治療を受けられるように心がけていきたいと思えます。

このような薬局で薬剤師1人1人が個性を生かし、毎日の業務をこなしています。そんな環境の中、私は日々様々なことを学び、鍛えられ、たくましく成長したなあと感じる今日この頃です。いろんな意味で…。

